I P M実践指標モデル（畑わさび）

分類	管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・環境雑草の発生しにくく	ほ場内、周辺の除草（必）	病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1		
		健全苗の定植（必）	定植苗は生育がよく病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する。	1		
		施肥管理	土壌診断を受け、土壌pH等を矯正し、適切な施肥を行う。	1		
		ほ場の選択	水はけの良いほ場を選択する。	1		
判断	タイミングの判断	気象情報の把握	気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心がける。	1		
		病害虫の観察	ほ場での病害虫の発生状況を確認し、防除に活かす。	1		
		トラップの設置	黄色粘着トラップ等によりほ場の害虫の発生动態を確認する。	1		
防除	耕種的防除	連作の回避、輪作	根こぶ病などの連作障害を予防するため、アブラナ科以外の作物と輪作を行う。	1		
		発病株・残さの処理（必）	菌核病等の発病株は見つけ次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分する。残さも同様に処分する。	1		
	生物的防除	性フェロモン剤や生物農薬の利用	適用のある害虫に対して、性フェロモン剤の利用や、B T（バチルス・チューリンゲンシス）剤、ホーベリア・バシアーナ剤などの生物農薬を利用する。	1		
	物理的防除	土壌病害・センチュウ対策	太陽熱消毒、熱水土壌消毒、散水蒸気消毒などを行う。	1		
	化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）	十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1		
		散布方法	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。防除は無～弱風時を選んで行う。	1		
		薬剤の選択	土着の天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1		
		散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川などに流入しないようにする。	1		
		気門封鎖剤や非化学合成殺菌剤の利用	気門封鎖剤・炭酸水素ナトリウム剤・銅剤などを利用する。	1		
	その他	作業日誌（必）	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、使用した農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のI P Mに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するI P M研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1			
				合計点数		
				評価結果		

*（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。